

令和7年7月11日 14時～	
資料提供（文化庁、和歌山県教委と同時提供）	
担当課	高野町教育委員会
担当者	木本 誠二
電話番号	0736-56-3050
メールアドレス	s-kimoto@town.koya.lg.jp

高野山の2つの塔頭寺院の建造物7件が国登録有形文化財に登録されます

国の文化審議会は、令和7年7月18日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議を経て、下記の7件の建造物の国登録有形文化財（建造物）の登録について文部科学大臣に答申を行う予定です。

西南院 3件 本堂、経蔵、山門
〔所在地：高野町大字高野山249番地ほか、所有者：宗教法人 西南院〕

蓮華定院 4件 本堂及び護摩堂、客殿及び庫裏、山門、塀
〔所在地：高野町大字高野山700番地ほか、所有者：宗教法人 蓮華定院〕

西南院は、高野山地区の西端、大門から東に延びる東西道路である大門通りの南側に位置する。開基は、真然大徳とされる。現在の境内は、山門が通りに北面して開き、山門をくぐった正面に本堂が北面する。本堂の西方には、渡廊下で坊舎群が繋がる。本堂および坊舎で囲まれた中庭は重森三玲により作庭さであり、中庭の南側の高台に経蔵が建つ。

本堂は、明治34年頃に建築された近代の大規模仏堂。入母屋造檜皮葺で正面東寄りに向唐破風造向拝を付し、内部は、内陣が並列する特徴的な平面形を呈し、東に金剛界大日如来、西に不動明王を祀る。

経蔵は、享和3年（1803）の建築であり、土蔵造二階建の入母屋造銅板葺で、一階正面に唐破風造銅板葺の前室が付く。床上は大壁造りで、床下は、柱をのみを漆喰で塗りこめた高床風の外観を呈する。

山門は、昭和45年頃の建築された切妻造銅板葺の四脚門。設計は、竹原吉助（寺社建築修理の名工として知られ、法隆寺の東大門や五重塔、住吉大社本殿など多くの建造物修理を手掛けた）と伝わる。

蓮華定院は、一心院谷の東北側に位置し、行勝上人が建久年間（1190－1199）に建立した奥坊念仏院が始まりとされる。真田昌幸・幸村が、大坂冬の陣までの間に住した。現在の境内は、南北に細長い敷地の南東端に山門が南面して開き、西側に塀が続く。山門をくぐった正面に客殿及び庫裏が南面して建ち、左手となる西部に本堂及び護摩堂が東面して建つ。

本堂及び護摩堂は、万延元年（1860）の建築で、入母屋造平入檜皮葺の本堂の北に護摩堂を接続する。天保14年（1843）の大火により前進建物が消失したためか、外壁を漆喰塗の土蔵造とする独特な外観を呈する。

客殿及び庫裏は、江戸時代末期の建築で、入母屋造平入檜皮葺で入母屋造の玄関を突出す。内部は西が客殿、東が庫裏となり、高野山の塔頭寺院の江戸時代の典型例の一つである。

山門は、万延元年（1860）の建築の切妻造四脚門。建築年代は棟札による。精緻な彫刻や、真田家の六文銭や結び雁金に家紋金具など装飾豊富な山門。

塀は、山門の西側に続く延長約40mの檜皮葺きの塀。海鼠壁で上部に水切を付ける。山門との関係などから江戸時代末頃の建築と思われる。

写真データが必要な場合は、s-kimoto@town.koya.lg.jpまでご連絡いただければ提供します。

報道解禁（文化庁と同時発表のため）

○テレビ・ラジオ・インターネット：7月18日（金）17：00

○新聞：7月19日（土）朝刊以降

（万が一、答申が遅れた場合は別途連絡いたします。）



西南院 本堂



西南院 経蔵 側面



西南院 経蔵 正面



西南院 山門



蓮華定院 本堂及び護摩堂



蓮華定院 客殿及び庫裏



蓮華定院 山門



蓮華定院 塀